

漁海況情報の収集・解析と広報活動

(新漁業管理制度推進情報提供事業・資源評価調査)

松本洋典・村山達朗

1. 目的

国連海洋法条約が批准された新漁業管理制度下では、本県の漁業者も、漁獲可能量を遵守しつつ、水産資源の合理的な保存・管理・利用、漁業経営の安定化を実現することを求められている。その中で、漁海況を始めとする漁業情報の活用は、漁業者、行政機関を問わずますます重要な課題となっている。そこで、本事業では、漁海況情報収集の充実、情報分析機能の強化および情報提供の高度化を計り、漁業者の計画的な操業を支援するシステムならびに資源管理を進める上で必要な情報の提供システムの構築を進める。

2. 方法と結果

(1) 情報収集

試験船「島根丸」により沿岸定線観測を実施し、水深0 m～500 mまでの水温・塩分、流れ、魚群分布、気象、海象のデータを収集した。また、県内主要漁協(浜田市・益田市・仁摩町・五十猛・和江・大田市・北浜・恵曇・西郷・浦郷など)から漁獲統計の収集と漁況の聞き取りを行った。さらに、日本海区水産研究所、西海区水産研究をはじめとする国立研究機関、山口県外海水産試験場、鳥取県水産試験場をはじめとする他県水産試験場および漁業情報サービスセンターと情報交換を行った。

(2) 情報分析と予報・速報の作成

収集した海洋観測結果ならびに漁獲統計資料を整理、解析し0 m、50 m、100 m深の水温分布図と解説文、浮魚類の魚群分布図と解説文を作成した。また、日本海区水研と西海区水研が開催した漁海況予報会議に参加し、浮魚類の中長期予報の作成を行った。予報を行った対象種は、マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、スルメイカ、ケンサキイカの8魚種で、その他、資源動向について解析を行った魚種は上記8魚種に加え、シイラ、ヒラマサ、トビウオ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ、アンコウ、アナゴ、ニギス、マダイ、キダイ、ヒラメ、エッチュウバイなどである。さらに、上記の情報分析結果を基に、毎月、漁海況の現況と中長期予報を取りまとめて漁海況速報「トビウオ通信」を作成した。

(3) 情報提供

漁海況速報「トビウオ通信」を毎月109ヶ所にFAXで、浮魚情報を27ヶ所に1回、海況情報を34ヶ所に10回FAXで情報提供した。漁海況速報「トビウオ通信」は平成10年1月号～平成13年3月号までを水産試験場のホームページ(<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>)に掲載した。

(4) システム開発

漁海況情報を始めとする、年間数百件にのぼる水産試験場への問い合わせ結果をデータベース化し、トビウオネット(県内行政LANシステム)を通じて登録、検索し、ホームページを通じて外部公開するためのシステム仕様の作成を行った。